西洋批評論Ⅰ

科目ナンバリング　EUS-301
選択必修　　2単位

藤田　敏明

1. 授業の概要（ねらい）

「批評論」とはどういうことか。定義しにくいが、とりあえずこの講義においては「文化事象を相対的、批評的に考える精神を涵養する」「自分自身、あ予備自分の所属する文化文明圏で理解するものより広い視野」を身に着ける訓練の場であると位置づける。それを前提として、西洋——基本的にはヨーロッパおよびアメリカーーの、「批評」のいくつかの事例を具体的に考察していく。
方法論としては、ある『命題』テーゼを提示し、それに対して『反命題』アンチテーゼをぶつけ、そこから「統合命題」ジンテーゼを想像する、というスタイルを採用する。
前期は、まず、古典古代ヨーロッパの基礎となる、ギリシア文明、ローマ文明、およびキリスト教の三位一体から始める。最終的には、「人間性」自体に対する「批評」がなされるはず。

2. 授業の到達目標

まず、何よりも、「日本とは異なるヨーロッパ」文明の基本について最低限の理解をすること、常識を習得すること。「自分が今まで暮らしてきた日本とは異なること」を理解すること、さらには「ヨーロッパを通して日本を考える」逆に「日本をとおしてヨーロッパを考える」姿勢を身に着けること。

3. 成績評価の方法および基準

授業時毎回提出の小レポートにおける授業内容理解55%、、および学期末のレポート45%。ただし、レポート提出は必須です。

4. 教科書・参考文献

教科書
教科書は使用せず、毎回、教員からのハンドアウト、および映像によって授業を進行します。参考文献については適宜授業中言及します。
教科書は使用せず、毎回、教員からのハンドアウト、および映像によって授業を進行します。参考文献については適宜授業中言及します。

5. 準備学修の内容

「西洋文明」および日本文化についての基本的な常識が、授業前に必要です。授業開始後は、自分の持っていた知識と、授業内容との相互検証。

6. その他履修上の注意事項

文化、文明をはそもそもどういうものか、さらには、人間とはどのようなものなのか、という、「日常必要な知識」とは異なる『問いかけ』がなされる授業です。

7. 授業内容

【第1回】	イントロダクション、「西洋」「批評」の定義づけ。ヨーロッパの基本としての「ギリシア、ローマ、キリスト教」まずは、ギリシアから。
【第2回】	アリストテレス、「詩学」西洋文明における「カテゴライゼーション」「定義づけ」「論理」の重要性。ギリシアにおける古典的な『冒険譚』Jason　and　Argonauts]
【第3回】	後半
【第4回】	Jasonに対するアンチテーゼ、「悲劇「メディア」前半
【第5回】	古代ローマ帝国——「ジュリアス・シーザー」、」ブルータスによる糾弾とアントニーによる追悼演説
【第6回】	後半
【第7回】	キリスト教の基本——創世記、エデンの園、ノアの箱舟、
【第8回】	キリスト教の基本——イエス・キリストの生涯、前半
【第9回】	ヨーロッパ全体へのキリスト教の拡散う、「異教」の潜在化
【第10回】	中世——ルネッサンス、魔法——アンチ・キリスト
【第11回】	悪魔の誘惑ーー「ファウスト」一幕
【第12回】	二幕
【第13回】	三幕
【第14回】	魔法で動く「人間そっくりの人形」バレエ「コッペリア前半
【第15回】	後半